

流科大生が創る、流科大生のための、キャンパスペーパー



RYUKA- STYLE Vol. 18

<http://www.umds.ac.jp>

Jul. 2009

TAKE
FREE!

RYUKAな人

工藤めぐみ

「サンバに魅せられた私」

まだ間に合う!

クラブ×サークル人材募集情報

モノアイ〜物愛〜

こだわりの逸品紹介

頭師先生・銅直先生

青山繁晴氏インタビュー

その軌跡から学ぶ

この店知っとお?

クーポンで
半額に!!

伊川谷 L.A ROOKIE'S CAFE

1-2

RYUKAな人

工藤めぐみさん

3

新入部員数ランキング

まだ間に合う! クラブ×サークル人材募集情報!

4

RYUKA DINING & RYUKA-STYLE
コラボ企画



5-6

モノアイ ~物愛~

頭師 暢秀先生

銅直 優子先生

7-8

RYUKAの“今”が見えてくる。

NEWS

9-10

青山繁晴氏インタビュー

—その軌跡から学ぶ—

11

クローズアップゼミ

足立ゼミ



12

この店知っとお?

伊川谷 L.A ROOKIE'S CAFE

13

投稿企画部

RSP リアル写メールブリーズ

14

コラム

編集後記

裏表紙

流科百景

アナタの知らない流科大

RYUKA な人

工藤めぐみさん

2008年度サービス産業学部卒業

世界的に有名なリオのカニバルで今年2月、スペシャルチームのサルゲイロのパシスタ(重要な役割を担う踊り子)として沿道の観衆を沸かせ、同チーム16年振りの優勝に貢献した日本人女性がいきました。彼女の名は工藤めぐみさん。流通科学大学サービス産業学部を卒業、ブラジルへ渡って2年目の快挙でした。

***そもそもものはじまりは**

工藤さんは9歳でサンバ教室に通い始めます。「はじめは母の付き添いで、何も知らないのに入られました。でも、気付いたら楽しくやっていました(笑)」。神戸まつりに出場、中学生からは浅草サンバカーニバルなどにも毎年参加しました。2004年、流通科学大学へ入学するとともに、サンバ教室

***あこがれから挑戦へ**

サンバを始めた頃から、工藤さんはリオのカニバルにパシスタとして参加することにあこがれていました。しかし、目標があまりに大きく、またポルトガル語も話せません。高校時代から夢実現のためにバイトでお金を

の仲間から熱望され、18歳で「MEGUサンバダンス」を主宰しました。

「夜中に爆竹の音と勘違いしたバンバンという音が、実は銃撃戦の音だった!」という状況で、果敢にオーディションに挑みました。パシスタになるには、練習場に飛び込み踊って

貯めてはいましたが、あと二歩が踏み出せずにいました。そんななかで「お母さんは仕事で行けないけどあなたは自由。私が出来ないことをあなたがやらない」と母親が一喝。その一言で決断し2004年10月、流科大1年生でブラジルへ渡りました。

***初めてのブラジル**

最も苦労したのが言語。1時間観察して

買い物の仕方を覚えたり、オーディション時は、パシスタになりたいという単語だけを覚えて繰り返し練習しました。ブラジルの貧民街発祥のサンバは、危険地帯に練習場があります。



今年のカーニバル会場での一幕

自分をアピール。これを繰り返すことで道が開かれます。弱肉強食の世界で、日本人というハンディを乗り越え、ポルティラとトラジサンという2つのチームのパシスタに合格、その年のリオのカーニバルで踊りました。

***選択。そして、2度目の挑戦へ**

卒業を控え周りが就活に動くなかで、工藤さんはサンバを続けるか、就職するかを迫られました。自分を見つめ直し、パシスタへ再チャレンジすることを決意。ゼミの足立明先生に「やりたい事があるならやりなさい」と後押しを受け、ブラジルへ渡りました。

2度目の挑戦と言っても、1からのチャレンジ。ポルティラに再度パシスタとして合格しましたが、日本人だからと意地悪をされたりもしました。「怒るのではなく、意地悪した子にあえて近づいて友達になるんです!」という言葉に工藤さんの積極性がうかがえます。

最初の挑戦で出来なかったサンバを楽しむ学ぶという思いで、多数のチームの練習に参加しました。その中のサルゲイロで、彼女が運命を感じた先生に出会います。「彼の指導方法、ショーの見せ方、お客にどんな表情をするか。すべて勉強になった」。悩んだ結果、ポルティラからサルゲイロにチーム変更を決断。練習は厳しく朝まで踊って帰宅。2時間仮眠の後、また踊る。その結果、サルゲイロのパシスタに合格しました。「あの時は自分でもよくやった



フェジョン・プレットのチームメイトと工藤さん(右から2人目)

なつて思います」と笑顔で話します。

***優勝して、これから**

「サルゲイロと聞けばメグ(工藤さんの愛称)というぐらいの素晴らしいダンサーになりたい。神戸に本場のサンバを広めたい。楽しいし、格好いですよ」と意気込みます。在学生には「目標を見つけてチャレンジしてください。あきらめずにやれば結果はついてくると思います」と力強い言葉をもらいました。120%の力でトライすれば、すべてのことは乗り越えられるという工藤さん。時代を切り開いていく人だと感じました。

(学生編集スタッフ 奥野智也)

**MEGU
サンバダンス
レッスン**



工藤さんが主宰、ブラジルのサンバが学べる。大人クラス、ジュニアクラス、初心者クラスがあり基本は女性のみ。大人クラスは中学生以上、ジュニアクラスは3歳から。シェイプアップをしたい、踊るのが大好き、理由は何でもOK。ジュニアクラスは、サンバだけでなくあいさつ、話し方なども教える。レッスン受講者は、工藤さんが所属する神戸のサンバチーム「フェジョン・プレット」に入ることが可能。男性は、同チームのバテリア(打楽器隊)として神戸まつりやイベントなどにも参加できる。本場のサンバを学びたい方は、教室へ足を運んでみては?

練習日時: 金、土、日曜日の18時~20時
場 所: 須磨名谷パティオ健康館3階1ハーサル室(神戸市営地下鉄名谷駅南)
U R L: <http://www.feijapreto.net/sambadance.htm>

パシスタとは?

チームの顔としてヒキニに羽根の衣装(一般的にサンバダンサーとして想像される姿で踊る。サンバノベと呼ばれる激しいステップを踏むことで、サンバのエネルギーを表現する。)

リオのカーニバルとは?

ブラジルのリオデジャネイロで開催される伝統的なサンバの大会。100チームほどが参加、スペシャルチームと呼ばれるAグループ(12チーム)とBグループに分けられる。パレードコンテストの順位によりAの下位2チームとBの上位2チームが毎年入れ替わる。1チーム4000~5000人で構成され、バテリアという300名以上の打楽器奏者の軽快なリズムと情熱的なサンバのハッピーで観客を沸かせる。